

あとがき

私は大手電機メーカーにて、業務用機器の製品設計に携わり、その後アメリカに赴任しました。帰国後、再度製品設計を経て、海外ビジネスに長い期間携わり、英語でたくさんの文章を書いてきました。いずれの業務経験も、本書の執筆に役立つことが多く、感謝しています。

定年退職後の約10年間、東京の業務用映像機器のレンタルハウスで、海外ビジネス業務に携わりました。今回、本書執筆の際、多くの貴重な資料を提供していただき、感謝しています。

本書の編集・校正については、2015年に「機械式時計の理論」、および2017年に「材料力学 はりの曲げ」の専門書を執筆・出版しました笹谷卓史氏に全面的に係わっていただきました。ここに感謝の意を表します。笹谷氏と私は大手電機メーカーの同じ設計チームで、共に働きました。

笹谷氏は2017年および2022年に上記それぞれの専門書の英語版「Theory of Horology」、「Material Mechanics Beam Bending」を出版しました。私はそれらの翻訳に取り組み、途中で挫折することなくやり遂げることができましたことは、大きな喜びとなっています。これも本書の執筆に大いに役立ち、感謝しています。

今後、海外でのビジネスがさらに進展して行くと、皆様の会社、あるいは組織と海外の会社・組織との間で協業・業務提携（コラボレーション）の具体案が出て

くることが想定できます。その背景として、一社でできることには限りがありますが、両社がそれぞれの得意とするところを融合させて、新たなサービスをビジネスモデル化することができれば、新たなニーズに対応することができます。そしてそれに続くさらなるニーズを掘り起こすことにもつながり、両社がウインウインとなる関係が構築できる可能性が高くなるからです。

業務提携提案時のアプローチの仕方はどうするのが適切か、また当該コラボレーション・スキーム（協業の仕組み）構築のプロセスはどうすれば良いか等いくつかの課題が出てきますが、その際にも皆様の論理的思考プロセスを基本とし、本書で学んでいただいたスキルが役に立つことを願っています。本書が皆様にとって、海外ビジネスを展開する上で少しでも役立つことを心から願っています。

最後に、本書「英文 E メールが書けるようになろう！ビジネス英文のライティングスキル実践編」の執筆は、私の人生の中で明らかにやりがいのある仕事の一つであり、また 楽しい経験となりました。このような貴重な機会を与えていただいたことに感謝致します。

2023 年 10 月 6 日

千村 年彦